

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	通所支援事業所フレンドロコペリ		
○保護者評価実施期間	令和8年1月15日 ～ 令和8年2月14日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22 (回答者数)	18
○従業者評価実施期間	令和8年1月15日 ～ 令和8年1月28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月29日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な検査やチェックを実施し、一人一人の課題をこまめに把握していること	○定期的なチェック・検査の実施（牧野・山田式言語保育検査等）	○チェック・検査結果からのアセスメントを職員全員で実施し、課題に合った接し方や声のかけ方を共通理解として持つておく。
2	ご家庭や園での困り感に対し、すぐに対応できるようにお帳面や送迎の会話の場での情報収集を行っている。	○お帳面やメール・電話にて、保護者の方から家庭の様子や困りごとの連絡を取っている。 ○園へ訪問して状況を確認したり、送迎の際に様子の情報交換をしていただくことによって、日々の気持ちや体調の変化を把握することに努めている。	○定期的なお声掛けをすることで、気軽に相談できる雰囲気づくりに取り組む。
3	記録の記入や今後の支援を考える際に、担当制ではなく全員で子供たちを見守ることによって、複数の視点からこどもの様子に気づき、支援の改善につなげている。	○担当制ではなく、職員全員で全体を見る形をとっている。 ○記録を記入する際も、それぞれ気づいたことを盛り込んで作成している。	○記入に時間がかかることがあるので、それぞれメモを取るなど、まとめやすいような工夫をしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	お散歩に出て地域の人と偶然交流するといったことはあるが、意識的な場を作った地域交流があまりできていない。	○感染症対策によって、交流を自粛していた。○外部へベアレントトレーニングなどのイベントを呼びかけていたが、なかなか人数が集まらなかった。	○感染症が少ない時期に計画する。 ○外部の方が参加しやすいようなイベントを企画し、その中にベアレントトレーニングを取り入れていく。
2	地域連携・学校との情報共有について、事業所からの提示はしているが、その後活用されているかなどの把握が難しい。	○卒業児さんのその後を追う体制がない。 ○卒業後はつながりが薄くなることも多い。	○児発から放デイへの移行によって、学校での困り感をフォローする体制を整える。 ○卒業してからも、相談できる場としてアピールする。
3	個別支援計画において、重点的に本人支援を行っている。そのほかの家族支援や地域支援などは行うことが難しい。	○家庭のトラブルに対して、一事業所として出来ることが限られている。	○利用児さんの周りの機関と連携しながら、本人支援だけでなく家族支援も盛り込んだ計画を作成し、実践していく。